

学生からのメッセージ

学生主体の芸術祭を 開催して

河原 佑真

福岡看護大学第3学年

今回の芸術祭は、これまでの芸術祭よりもさらにレベルアップしたものにすることを目標にし、450人弱の全学生がどうしたら楽しめるかを考え、準備を進めました。話し合いの中でいろいろなアイデアが浮かびましたが、費用などの制限もあり、やりたいと思ったことが全てできるわけではなかったため、もどかしかったです。実行委員みんなで話し合って費用の割り振りや出し物を考え直して、実現できるように工夫しました。また、これまでの芸術祭の中でも人気だったビンゴ大会は、例年よりも景品を豪華にして、さらに数も増やしました。ブランド牛や有名企業のタンブラー、話題のヘアブラシなどを準備し、参加した学生たちからも大好評でした。学生たちが笑って楽しんでいる様子を見て、たくさんの人に笑顔になってもらうことの素晴らしさを感じ、いい経験になりました。



今回の芸術祭でよかった点や反省点を活かして、次の芸術祭がもっといいものになればうれしいです。

最後に、先生方や芸術祭実行委員、ボランティアメンバーのみなさんへ。
みなさんの協力があつて今回の芸術祭を無事開催することができました。ありがとうございました。

保護者からのメッセージ

学生後援会、同窓会は 皆様の味方

持山 達郎

福岡歯科大学同窓会副会長・福岡県西同窓会会長

私は福岡歯科大学13期卒業生で縁があり、二十年近く同窓会活動に携わって参りました。正直最初は「同窓会って？」と思った時期もありましたが色々な先輩方のご指導の下、関わるうちに久しぶりに会う恩師や友人、知人の現況や成長した姿、そして思ひ出話などで盛り上がり、また入会した地域の歯科医師会においても母校の先輩から様々なお世話、ご紹介をいただき、他大学の先生方や同級生、後輩と会務運営に楽しく従事することができています。当たり前ではありますが、我々は国家試験に合格すれば歯科医師という職に就く方々がほとんどです。その中で学生時代に色々な恩師、先輩、後輩、同級生と出会い、思い出を持つことが皆様の将来に大きく役立つと思います。国家試験を目指して常日頃の勉強はもちろん学生の自分ではありますが、それと同じくらい良い出会いと良い思い出を作ってください。私は、私を歯科医師として育ててくれた福岡歯科大学に誇りを持って地域歯科医療に従事しています。



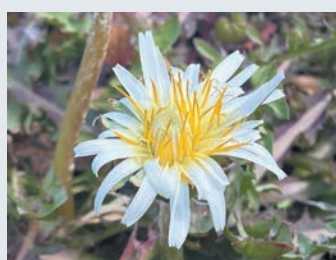
New
Sophia
コラム

シロバナタンポポ

18歳の春のこと。大学に入学するために九州の地を踏んだ翌週、下宿の近くを散歩していて白い花のタンポポを初めて見つけた。ビックリして押し花標本を作った。ひょっとしたらアルビノか新種だろうかと思つて調べてみたら、なんのことはない。西日本ではありふれたシロバナタンポポ(*Taraxacum albidum*)だった。それまで住んでいた東海地方ではタンポポはどれも黄色く、白い個体を見るのは初めての経験だった。

そのうち九州の各地を歩いてみると、シロバナタンポポは意外なほどよく見かける。田中修氏の中公新書「雑草のはなし」に、四国や九州の一部では「タンポポの花は白いもので、黄色の花は珍しい」と言う人がいるとすると、確かにあるのにも頷ける。かくのごとく、世の中を広く眺め、経験をしてみないと、井の中の蛙になつてしまふ。知らないことは多いものだと感じた青春のコラム。

(内藤 徹)



編集後記

暑い日が続いておりますが、New Sophia123号が内容厚く完成しました。国際支援、地域貢献、オープンキャンパスなど楽しい話題が満載です。各方面のお知らせもたくさんあります。7月26日には令和6年度開学記念式典が開催されます。これからも熱い心を持って福岡学園の新しい歴史を作っていきたいと思ひます。